

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195300124		
法人名	(株)ゆう悠		
事業所名	グループホームともに		
所在地	北海道斜里郡斜里町青葉町28番地		
自己評価作成日	平成28年10月10日	評価結果市町村受理日	平成28年12月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigrosyoCd=0195300124-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設4年目を迎えました。「ゆっくりとした時間の中で、ひとり一人の思いを大切に、共に(ともに)安心して暮らすことのできる居場所を、みんなの力で創造していきます。」という理念を掲げ、施設代表者を筆頭に職員一丸となって、日々の支援に取り組んでいます。
 開設後4年を迎え、平均年齢も平均介護度も上昇し、日々の活動の内容にも若干の変化が生じています。が、入居者様一人一人が笑顔で楽しく過ごすことのできる居場所の確保、ご家族との絆の継続、できることを継続すること、できることや希望の発見などを念頭に、様々な行事を組み立てたり、日常の支援に取り組んでいます。
 施設の特徴としては、面会に来られる友人、ご家族の方が多く、ご家族と一緒に行事に出かけたりお墓参りに行く等の活動ができること、ご家族と一緒に昼食を食べて帰られることなどがあげられます。また、地域の環境、自治会関係者の方々にも恵まれ、買い物や図書館外出、病院受診が容易に行える環境にあること、ボランティアの方々が変わらず定期的に来所されることなどがあげられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関に入ると開設時からの理念が掲示しており、そこには「グループホームと共青葉」とあり、毛筆で書いてあった。青葉とあったのは本年4月にもう一つのグループホーム中斜里が開設されたからであり、共に歩み始めた。それぞれが1ユニットではあるが職員配置を考え利用者との懇談時間が取れるよう配慮している。理念にある「ゆっくりとした時間の中で、一人ひとりの思いを大切に共に安心して暮らすことのできる居場所を、みんなの力で創造していきます」の通り、ゆったりとした穏やかな時間が流れている。職員は利用者と一緒に仕事をし、利用者を第一に考えており、生活を楽しむ事を大切にしている。ワイワイしている事が楽しし、笑っている時間が多いです。と話している職員も怪我をしないよう気配りしながら介護に取り組んでいる。代表者は、介護や記録、ケアの視点等についての課題を職員に割り振り、目標として勉強し、内部研修に取り組んでおり事業所の質の向上を目指している。また、地域との交流は、火災や災害の避難訓練はもとより、運営推進会議やボランティアとして様々な活動のサポートを得ており、職員の紹介も受けている。まさに「ともに」を中心に、利用者家族、地域、行政が一本の線で繋がっているグループホームと成っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、休憩室に理念を掲げている。 毎月の職員会議で理念を確認し、実践に努めている。	開設時の代表者の思いを理念に掲げている。玄関、休憩室に掲示し会議の中で確認しながら実践につなげている。パンフレットや重要事項説明書に記載しており、利用契約時に利用者、家族に説明し理解を得ている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる催しものには積極的に参加し、外部の方や地域の方との交流を深められるような関わりを設けている。	自治会活動は少ないが、近隣の小、中学校で開催される運動会や保育園へ参観している。読み聞かせボランティアの定期的な訪問や高校生ボランティアとの交流があり、グループホームの行事への参加も得て相互交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族の方への支援の他にも、地域の方の急な相談等にも対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回、運営推進会議を行い、実状の報告を行っている。そこでの話し合いを生かし、その後のサービス提供に活かしている。	運営推進会議は年6回、利用者家族、自治会役員、地域住民、町担当者、知見者の出席を得て状況報告、活動報告を行い、意見を得てサービス向上に活かしている。利用者家族は2年ごとに2名に代表をお願いし、他の家族には議事録を送付して情報共有に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や避難訓練等にも参加して頂き、実状の把握をいただきながら、助言等をいただく。	町担当者とは報告書提出や情報を得る為訪問している。運営推進会議議事録提出後には担当課長から電話があり、情報交換をしている。また、代表者は事業所連絡協議会の代表を務めており、お互い助け合う関係に成っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外玄関の施錠しない事、ベッド柵位置等も考慮している。 また、内部研修の議題としても取り上げ、職員全体で取り組んでいる。	身体拘束防止に向けては、毎年、必ず職員が講師と成って内部研修に取り組んでおり、身体拘束の弊害や指定基準の禁止対象行為等を正しく理解している。また会議では、不適切な言動や行動抑制についても話し合われており、適切な介護に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1年に1度は必ず内部研修を行い、職員全体で確認し、日々のケアの際にも言動に注意して支援を行っている。		

グループホームともに

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修の議題として取り上げ理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明を行い、その際、不安や疑問を聞き入れて解決できるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様との会話を多く持ち、意見要望を聞いている。また、ご家族来所時には近況報告を行い、意見要望を聞いている。玄関にご意見箱を設置している。	管理者、職員は利用者との会話の中で要望を把握し、運営に反映させている。家族の訪問は多く、職員は介護中でも必ず顔を見て挨拶し、コミュニケーションをとるよう心がけている。毎月の様子は通信でお知らせし、電話やメールでもお伝えしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員が提案できる雰囲気になっている。また、職員会議でも意見を出し合い、検討して業務に反映している。	職員は年間目標を持ち、内部研修の議題として研修の講師を務めている。毎月の職員会議の他、個人面談を行いその中で職員の意見や提案を把握し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日常的に職員を見ていてくれ、コミュニケーションをとり、雰囲気良い職場環境に努めている。また、職員からの意見の聞き取りを行い、意見をいえる場面を作ってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外研修は職員全体に紹介し、希望者が参加できるよう勤務調整を行っている。内部研修はテーマごとに担当を決めて職員全体で行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所職員に運営推進委員を依頼したり。町で行っている連絡協議会や法人外研修の参加等で同業者間交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の事前の調整を十分に行うことで不安や要望について理解し、解決法を考慮しながら、日々のケアにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前の調整時、ご家族の介護に対する負担感や今後の要望等を聞き、丁寧に対応するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前の聞き取り時の情報をセンター方式に記入して整理し、事前に担当ケアマネ等とも相談しながら必要なサービスを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること、できないことをしっかりと見極め、会話を多く持ち入居者様の状況把握に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来所時にはご本人の状況について報告し、ご本人の状態理解の共有を図っている。また、誕生日会や行事、があれば一緒に参加していただけるよう働きかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも友人、知人、職場の元同僚等の訪問が多くあり、途切れることなく関係が保たれている。職員も関係性を理解し来所時に関わりを持ち、支援を行っている。	利用者のこれまでの馴染みの理容店や美容室への訪問希望やお墓参りには家族が対応して行っているが、状況で事業所でも対応している。また、知人の訪問が有り、話しやすい雰囲気作りを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体での行事やレクリエーションの参加を促し、居室間の行き来も行っている。		

グループホームともに

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになったり、入院等で契約が終了したご家族が来所してくれたり、街であってもご挨拶させていただいたり、関係性を継続させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人より希望があった際にはなるべく早い段階で個別対応できるよう、職員間で調整し支援に努めている。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向をセンター方式のアセスメントや会話の中で把握し、職員間で情報共有しながら実現に向けて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、情報を整理している。新しい情報については、その都度書き加えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調や気分等を記録に記載し、月に1度の職員会議では一人一人の状況把握を職員間で確認している。変化時には、申し送り等で情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは定期的に行い介護計画を見直している。また、月に1回の職員会議では毎月の状況について見直し、次月の支援留意点を職員間で話し合い、確認している。	介護計画は概ね3、4ヵ月毎に利用者、家族の要望を反映させながら毎月のカンファレンスやモニタリングを行い、見直しを行っている。職員は、状況を把握して業務に入る前に介護計画を確認している。変化や様子は24時間シートに記入して現状に即した計画作成や介護支援が出来るよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は24時間シートに記入し、ご本人の言動や様子について記載。状況の見直し等にも利用されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常業務内や会議などで話し合い、職員みんなの意見を組み合わせ、柔軟なサービス対応につなげている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が以前から利用している環境を大切し、活動意欲につながるような配慮するとともに、新しい施設などを紹介、利用することで活動の幅を広げる工夫をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内の病院に限らず、ご本人ご家族が希望する医療機関への受診を継続している。また、歯科、内科、神経内の往診なども活用し、健康状態の維持に努めている。	利用者のこれまでのかかりつけ医への受診を基本としているが、多くは協力医の往診を受けている。事業所には看護師が在籍し、24時間オンコール可能と成っており、健康管理を行っている。	

グループホームともに

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師と介護職員との関わりは十分にとれており、適切な情報共有、指示等が行われている。また、24時間連絡体制が整っており、夜間であっても、不調者が出た場合の対応が速やかに行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設看護師が中心となり、病院関係者との連絡、調整を密に行っている。入院した際も、治療状況の把握に努め、早期退院できるよう調整している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについては内部研修で学習し、ご家族とも入居時に確認するなどの体制をとっている。	重度化した場合や終末期については、利用契約時に重度化した場合における看取り介護(ターミナルケア)指針で説明し、理解と同意を得ている。さらにターミナルケアマニュアルを用意し、事前調査書で意向を確認、職員研修を行い、体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な応急手当訓練の実施、緊急時のマニュアルの確認を行っている。運営推進会議での意見交換時にもアドバイスを受け、緊急時の心構えを養っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回、様々な場面を想定し避難訓練を実施している。避難訓練にはご家族や運営推進委員も参加してくれ、訓練後の意見交換で改善点などについて検討している。	年4回、日中、夜間想定避難訓練や救急救命訓練を行っている。消防署の指導や自治会や地域住民の協力を得て行っており、非常口からの車椅子搬出訓練等、工夫した訓練を行っている。また、その他の災害にも対策を取っている	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかい、表情に気を配りながら対応している。一方的な介護にならないよう、個々の話を聞くよう努めている。	利用者一人ひとりの主体性を尊重しながら、人格や誇りを傷つけない対応を心がけている。利用者への呼びかけは苗字、名前さん付けを基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が表現しやすいような環境を作り、迷った時は、選択肢を設け、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のその日の状況を把握し、その状況に応じた動きが取れるよう支援する。外出や買い物希望等も柔軟に対応できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際にはご本人に選んでいただく、外出時にはお化粧する等の支援を行っている。また、衣類の清潔にも気を配っている。		

グループホームともに

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物を取り入れ、食事が楽しみになるよう工夫しながら提供している。また、野菜の皮むきや、畑に収穫に行くなど楽しみながらできる工夫をしている。	調理専門の職員がおり、メニューや買い物を担当している。利用者の好みや状態を考慮した調理を利用者と一緒に取り組み、利用者、職員全員で食事をとっており、楽しみな時間と成っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の一日の摂取量を継続的に記録している。食形態についても、ご本人の状態に応じ、食器の検討やミキサーや刻み、トロミなど、安全に提供できるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの施行。口腔内の状態に応じ、ブラシやスポンジ、必要な介助を見極めて行っている。就寝時には入れ歯の除菌も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、表情や動きなどにも注意し、できるだけトイレで排泄できるよう支援を心がけている。	利用者一人ひとりの排泄記録を把握して、パターンやサインでの誘導を行っている。トイレや浴室での汚物は表廊下を通らない処理が可能となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に気を配ったり、腹部マッサージや運動なども行っている。また、個々の排便状況に応じ、看護師の指示のもと下剤調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望があるときには希望に沿って入浴している。また、希望の入浴剤を使用したり、個々にあった入浴剤の配置などを考慮し、安全に入浴できる環境を整えている。	週2回、利用者の状態や状況を考慮して入浴している。入浴を好まない利用者には時間や別な職員での声かけで環境を変えて支援している。入浴剤を好む利用者もおり、個々にあった入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の安らぐ居場所で休息できるよう配慮している。空調や採光などにも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については職員全員が確認できるような体制を整えている。また、投薬内容変更時にも記録や申し送りなどで正確に伝えるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の希望に応じた外出支援や食事以外のおやつ、テレビ番組の選択等、少しでも笑顔で過ごせることを目的として日々の支援にあたっている。		

グループホームともに

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の食べたいものを購入しに個別で買い物に行ったり、お墓参りや選挙、ご自宅への外出等、ご家族と相談しながら外出支援に取り組んでいる。	日常的に近隣への散歩や畑仕事、スーパーへの買い物で屋外に出ている。また、毎月のように近隣町村の公園や道の駅にドライブに出かけたり、小学校の運動会や図書館と希望を把握しながら外出支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に所持金は施設保管としていますが、買い物や残金の把握等、希望があった場合には随時対応し、安心していただけるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用している方もいる。希望があるときにはホームの電話を利用してご家族等に連絡している。また、年賀状などの季節のあいさつなどでは、字が書けなくても、シールやスタンプを使用し、できるだけご本人に関わって頂き作成している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生係を設置し、施設内外の清掃を細やかに行っている。温度や室温にも常に気を配り、壁には季節ごとの飾りつけを貼り、利用者様も楽しみにしている。	リビングは広く温湿度に配慮した環境を保持している。季節の飾り付けを行い、楽しみを演出している。夜間事務室にいと利用者の物音が聞こえるような配置になっており、安全に配慮した作りと成っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの落ち着く居場所があり、気の合う仲間同士でお話したり、余暇時間は全体で交流できるよう配置を工夫するなどの配慮を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にはご本人が使い慣れたものや家具などを持参していただいている。また、ベッドの位置もご本人が生活しやすい環境が整うよう工夫している。	居室にはクローゼットが設置され利用者の使い慣れた家具を持参して配置されている。壁には家族の写真や絵、縫いぐるみが飾られており、自宅同様に過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりが設置され、床もバリアフリーの設計となっている。トイレも照明位置やドアの色を変えるなど、わかりやすいように工夫されている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム とともに

作成日：平成 28年 12月 8日

市町村受理日：平成 28年 12月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		入居者様の高齢化及び介護度の上昇により、以前と比較して活動の内容や量が低下しつつある。 今後、入居者様の身体機能の維持、活動に対する意欲の向上及び維持に向けた支援を計画的、継続的に行っていく必要がある。	入居者様個々人の状況をしっかりと把握し、計画性を持って支援にあたることで、現在の身体機能の維持及び向上を図り、活動意欲の向上を目指していきます。	・センター方式を利用し、個々人のできること、できないこと、わかること、わからないことをしっかりと把握していく。 ・生活動作の中で行える身体動作を大切にし、できることの維持に努めていく。 ・介護計画に活動に対する支援内容を明記し、計画的に実践していく。 ・余暇時間の充実を図り、活動意欲の向上を目指していく。 ・会議等の場を活用し、入居者様の状態を職員間で把握し、統一した視点を持って支援にあたることのできる体制を強化していく。	6ヶ月間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。